

きょうと福祉倶楽部だより

2017年 1号



久しぶりのおたよりです♪

ご無沙汰しておりますがみなさんいかがお過ごしでしょうか？
ばたばたと新年を迎え、もう1月もなかばとなりました。

2017年がみなさんにとって実り多い年になりますよう
そして幸運な年になりますように

さて今回のおたより…

ひとり暮らしのお年寄りを訪問しているヘルパーさんが手記
をかいてくれました。紹介したいと思います。

これからも寄り添って



ひとりで暮らしておられる認知症を患うMさん。訪問させてもらって2年目になります。支援に関わり、訪問する人達を当時は不安そうな表情で、にらむような目つきをされていました。この方は私たちの事務所を利用される前医師からは「一人では暮らせない」「施設へ…」と宣告されていました。

家の中は荒れ放題、寝る場所もありませんでした。そんな状態ですので医師も在宅を無理だとおっしゃったのでしょう。
とにかく寝る場所の確保のためにベッドを入れ、そこそこですが普通のお部屋として使えるまで戻し、生活の場の確保から入りました。

当初は少し混乱があったようですが、いろんなヘルパーが毎日訪問することによってみるみる表情に変化が現れ、たまに鼻歌まで出るようになりました。

ある雨の日訪問すると、「雨なのに大変だったでしょう」と優しく声をかけてくださいました。

やっと信頼して、受け入れてもらえた。そう思えました。

それからは、訪問するたびに、長年勤めてきたお仕事の話や、政治のことだと思われる話(話が飛ぶので、わかりませんが)や、ご主人のお話、ご両親、ご兄弟のお話…沢山お話していただきます。

ヘルパー同士で話をしても、みんなに同じような話をされてるのがわかりました。そのころからか、「認知症の症状の進みが、穏やかになってきている？」と訪問しているヘルパーみんなが感じていました。

ですが、このMさん、『片付け』がやめられません…この片付けは普通の片付けではなく、ダンスの中のものをすべて出して、少し入れてはまた出して、2階からもってきた衣類を袋の中に詰めて、出したり入れたり…下着をゴムで丸めて縛ったものがたくさんあります…不思議です。

「毎日片付け大変ですね」と声をかけると、

「主人と一緒に住んでいた家をきれいにして、このままここで暮らしたいから…」とはっきりと答えられました。

そうかとおもうと、

「この家片づけて綺麗になったら、あんた、ここに引っ越してきて～」と(笑)びっくりしましたが、こんなに信頼してもらってとてもうれしく思いました。

毎日笑顔で迎えてくれるMさん、こちらが優しい気持ちになります。

ヘルパーと一緒に住めないけど、心は一緒にすんでいます。

そっと寄り添って…

今後も穏やかに暮らせるお手伝いができたらと思います。

介護を社会化する「はずだった」介護保険—17年後の今

介護保険は2000年から施行されました。

これは社会の高齢化が進み社会問題になってきたとき、あたかもこれからは社会が介護に責任を負うという文句で始まりました。

しかし、この時代に介護保険はいずれ破綻すると主張する人々が少なからず存在し、反対する人々もいました。わたしもそのひとりでした。

なぜならば介護需要が増えれば保険料は上がり続けるしくみだからです。

また、公的責任を後景に迫りやり「民間活力」と市場原理のなかに高齢の方々を放り出しそれで企業が利益をあげる仕組みに高齢者を組み入れることになることが懸念されたからです。

施行から17年が経ち、実際はどうなったのでしょうか？

介護保険料は上がり続けています。長岡京市での基準額は制度施行時0円だったものが月額5996円、年間では71952円もの保険料が高齢者に課せられるようになりました。

そして自己負担も1割負担から所得によっては2割に上昇、施設の居住費も増え続けています。くわえて要介護3以下の方は特別養護老人ホームからは排除されるようにもなりました。

民間企業が行う介護事業は先に問題になった「アミーユ」の事件に象徴されます。殺人という究極の虐待が起こるほど現場は荒れています。

あるお年寄りが入ったサービス付き高齢者住宅のケアマネージャーは自法人のヘルパーだけを使い一歩も外に出す事の無い「ケアプラン」を作っていました。高齢者の自立と無縁なプランが企業の利潤のために作られたのです。

きつい、きたない、給料が安い、3K職場に優秀な人材も集まらなくなりました。

そして軽度者は介護保険給付からホームヘルプやデイサービスを外し市町村事業に移されることになりました。

全額社会保障の財源にすると行った消費税はいったいどこに消えているのでしょうか？

福祉と介護の再生は緊急の課題です。でなければ高齢者は死んでしまいます。

みんなで政治のあり方を問い直す必要があります。

書評

在宅介護——「自分で選ぶ」視点から
(岩波新書) 新書 - 2015/8/21

結城 康博 (著)
820 円 + 税

介護保険の利用者の方は、サービスの利用にあたりケアマネジャーにたよりがちです。

しかし、自分と家族の暮らしといのちを守るためにそれでよいのでしょうか？

また、国は今年も介護保険からの予防給付外しなど財源を理由とした給付の削減も準備されています。

この本は、制度活用のヒント、
国の給付削減の方向性を否定しあるべき姿を提案
する本です。

種々の意見が介護のあり方に
投げかけられています。
給付削減一辺倒だけで無く、
豊かな老後のために
どうすべきかという
提案は一考に値します。



有限会社 おとくに福祉研究所
きょうと福祉倶楽部

〒617-0824
長岡京市天神4丁目7-12 ハイッ東台101号
TEL 075-958-2560
FAX 075-957-2808
E-mail kvto-care@niihemail.ne.jp

